



イマジン
ロータリー

創立昭和28年1月8日

TANABE ROTARY



District 2640 田辺ロータリークラブ Club Weekly Bulletin

2022-2023年度
国際ロータリーテーマ
「イマジン ロータリー」
-IMAGINE ROTARY-
ジェニファーE・ジョーンズRI会長
国際ロータリー第2640地区
森本芳宣ガバナー

4つのテスト (FOUR WAY TEST)

- 言行はこれに照らしてから
(1) 真実かどうか
(2) みんなに公平か
(3) 好意と友情を深めるか
(4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
例会場 ホテル・グェスト南紀田辺
会長 新藤 整市
幹事 橘 一徳
会報委員長 山本 浩之
<http://tanabe-rc.com/>

承認 昭和28年3月2日
事務所 〒646-0031
田辺市湊23-6
TEL 0739-24-2002
FAX 0739-26-0264
mail tanabe-rc@helen.ocn.ne.jp



「朝焼け-早朝散歩にて-」撮影 玉井洋司会員

●司会者
新藤整市会長

●ソング
四つのテスト

●ゲスト
和歌山大学 学長補佐
紀伊半島価値共創基幹「Kii-Plus」
准教授 西川 一弘 様

●ビジター

9月1日のプログラム

SHIOGORI CAMP 実行委員会
実行委員長
福田 聖 様

9月8日(木)は休会です

9月15日のプログラム

ユニリーバ・ジャパン・ホー
ルディングス株式会社
取締役人事総務本部長
島田 由香 様

出席報告

	第3361回	第3362回	第3363回
会員数	83名	84名	84名
出席規定免除会員数	8名	8名	8名
出席計算会員数	77名	78名	78名
出席者	49名	57名	49名
出席率	63.64%	73.08%	62.82%

メイクアップ

8月23日 玉井 (串本RCガバナー公式訪問例会)

お祝い

会員誕生日 植田芳、宮本、山路、中田健
配偶者誕生日 吉田美智子(透) 野村真起子(富也)
稲田洋子(太門)

ニコニコ箱

☆和歌山大学准教授:西川一弘様、本日の卓話よろしく
お願いします。……………新藤、橘、柏木、
田中元、濱口、平尾、廣本、伊賀、稲田太、皆瀬、木下、松本、
宮本、中田隆、中田吉、野村、大木、瀬戸、杉若、住山、玉井、
玉置達、植田英、和田、脇村富、山路、横田、溝口、岩本
☆会報に写真採用されました。ありがとうございます。
……………玉井
☆先週の私の卓話に素敵なお褒美をいただきました。
ありがとうございました。……………山路
☆昨夜、ボウリングでハンディのおかげで勝ちました。
楽しかったです。……………瀬戸

お知らせ

会長報告

・新型コロナウイルスの新規感染者数が、毎日報告されておられ、まだまだ増加している状況です。皆様には例会時の感染予防のため更なるご協力をお願いします。

幹事報告

- ・8月18日に会員として推薦された1名の方について、7日以内に異議申し立てが、なかったことをご報告いたします。
- ・8月23日、串本ロータリークラブガバナー公式訪問例会に、玉井洋司ガバナー補佐が出席されました。
- ・第20回記念ロータリー全国囲碁大会のご案内、米山記念館 館報及び秋季例祭のご案内が、届いています。

委員会報告

親睦活動委員会

西嶋 聡委員長

・9月10日(土)の、全国ロータリークラブ野球大会応援ツアーの出欠表を、回覧します。

ゴルフ同好会

新井康司会員

・地区より地区大会記念ゴルフ大会のご案内が届いています。10月18日(火) 有田東急ゴルフクラブ(有田川町)にて行われます。参加費は1万円です。申込締切は9月16日です。出欠表を回覧します。ご参加宜しくお願いします。

『和歌山から発信する鉄道防災教育の取組み』



和歌山大学学長補佐
紀伊半島価値共創基幹「Kii-Plus」
准教授 西川 一弘 様

みなさん、こんにちは。和歌山大学の西川と申します。私は大阪・泉佐野の生まれですが和生時代から紀南が大好きで、いろんな活動をしてきました。私の和歌山大学生活の最初は、Big・Uにある南紀熊野サテライト（当時紀南サテライト）の地域連携コーディネーターでした。その時は鮎川在住です。

現在、紀南との関わりでは田辺市の社会教育委員として公民館を軸とした田辺らしい自治の取組、きのくに活性化センター事務局長として大学生の関係人口づくり、各市町村の交通関係会議の委員として地域公共交通の活性化やあり方に関わっています。

今日は、自分の研究領域である「鉄道防災教育」について、お話ししたいと思います。

「鉄道防災教育」ですが、これは列車に乗車中に津波から乗客・乗務員を守る研究になります。約11年前の東日本大震災では広範囲に甚大な津波被害をもたらしましたが、列車乗車中、津波による直接的な人的被害はありませんでした。要因としては、①東北沿岸も「巨大地震イコール津波」と認知されていたこと、②現場の情報を基にした避難誘導・列車内待機の判断があったこと、③何よりも津波到達までに時間があったことなどが挙げられます。では、津波襲来までの時間が短いとされる、JRきのくに線ではどのような対策を講じればいいのでしょうか。

紀伊半島の沿岸に敷設されたきのくに線。観光列車「ウエストエクスプレス銀河」の第二弾も始まるなど、風光明媚な海の景色が楽しめます。いうことは、津波発生時のリスクも抱えているということです。和歌山～新宮間の全長200.7kmのうち、津波浸水想定区間は69区間・73.5kmに及びます。避難までの時間が非常に厳しい中で、犠牲者出さない取組として、地元の高校と一緒に訓練を実施したり、車両客室内に避難梯子を設置したり、特急くろしおのシートポケットには緊急脱出しおりを設置したり、一斉にドアを開けて飛び降り降車したりするなど、JR西日本和歌山支社は非常に先駆的な取組を進めています。

大切なポイントは、乗務員の誘導に頼るのではなく、乗客の避難力を高めていく支援を行うこと。すなわち、

「避難させる一させられる」の固定的な関係性を打破していくことです。

避難訓練など充実していくことは大切ですが、一方で①訓練実施には労力とコストがかかって回数をなかなか増やせないこと、②訓練にはいわゆる「意識の高い人」しか来ない問題、③防災対策の展開による風評被害の課題などがあります。そこで、私は「防災といわない防災」の考えのもと、地域資源を楽しく学びながら、鉄道からの避難方法も学ぶプログラム「鉄學」（鉄道防災教育・地域学習列車）を開発し、実践しています。

初めて「鉄學」を実施したのは、2016年11月12日。最初はモニターツアー編として実施しました。その後、地元高校の教育カリキュラムと連携した「防災スクール編」や「世界津波の日高校生サミット編」、エデュテイメントツーリズム（旅行商品化）として実施された「紀の国トレイナート編」など、鉄學はこれまでに7回開催。幻の8回目（コロナで中止）もありましたが、防災教育やふるさと教育、観光振興・地域創造などへの貢献をめざしています。現在はコロナ禍の影響により、鉄學プログラムの開催は見送られていますが、また違った形でも実施したいと思います。

和歌山県は濱口梧陵さんの故郷で、「世界津波の日」発祥の地です。和歌山が有する津波対策を学習資源と位置づけ、将来的にいろんな活動を通じて、和歌山を鉄道防災教育や津波学習の拠点にしていきたいと考えています。

和歌山を鉄道防災教育の拠点に
和歌山から発信する“津波防災学習を”



鉄學
The learning for disaster resilience
and community resource by the train



鉄道防災教育+地域学習=鉄學

地域資源を（楽しく）学びながら、
鉄道からの避難方法も学ぶプログラムを開発・実行

例) 地域資源のスポットに、列車から飛び降りで見に行く
避難体験をした地点の地域資源の解説を聞く 等々

↓
鉄道乗車中の率先避難者の拡大を目指す

